

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:令和6年2月13日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用人数10人に対して指導訓練スペース35.62㎡を確保している。
	2	職員の配置数は適切である	○			有資格者・児童発達支援管理責任者・保育士児童指導員が職員として勤務・加配加算を取っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			活動スペースはバリアフリー食事の部屋と分けられている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			自社開発の業務運営管理システムにて目標設定し、期限を決めて取り組んでいる業務内容についてはブリーフィングでの周知を徹底。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			放課後等デイサービスのガイドラインに基づく利用者アンケートを実施し、意向等を反映している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所の掲示板やHPにて記載。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			外部から頂いた評価をもとに、改善点について話し合い今後の業務に繋げている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			県や自治体開催の研修に参加、またサポカレの動画研修を取り入れてスキルアップを図っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			契約時にアセスメントを行い支援プランを提示し、保護者承認を得た後に利用を開始している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化したアセスメントツールを使用している
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			管理者・児責・支援スタッフで個々の児童に合わせたプログラムを作成している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			活動は個別プログラム・集団支援両面で発達支援を行っている。プログラム更新会議も定期的開催し固定化しない工夫をしている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日は個別プログラムを、休校日は野外活動・イベント参加・畑作業などを行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			発達段階に応じた個別プログラムを実施計画に反映している。コミュニケーション・日常生活・社会性スキルの3分野に力を入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前にはブリーフィングを行い情報共有し、当日の役割を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			個々の児童支援日誌を記入し、活動支援の振り返りを行いスタッフと支援について話し合いを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録を基に、スタッフ間の情報を共有し合い意識付けを行っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			半年に1回の保護者面談を行い、年に1回プランの見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			ガイドラインの基本を活動に加え、就労や自立に向けたプログラムを考え活動の範囲を広げている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		作成しているが、内容や周知が十分とは言えない為今後改善を図っていきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		水害・火災・地震を想定した避難訓練を年2回実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待やグレーゾーンの観点から事業所内研修や話し合いを設け、虐待について意識合わせのもと支援を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		お子様の特性に応じた方法を検討し、事前に保護者様に説明・了承を得たうえで支援計画上に反映することになっている。身体拘束を行った場合は、その都度状況を保護者様に報告。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時にアレルギーの確認を行い、食育支援を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故やヒヤリハットがあった場合は報告書を提出し、またその件についての話し合いを行い再発防止に取り組んでいる。